

追分高校です



公立高等学校説明会を開催

6月17日

追分、早来各中学校の3年生を招いて「安平町の中学生のための公立高等学校説明会」を本校で開催。

全体会では、三浦校長先生から、公立高校の種類と特色等についての説明をはじめ、「高校とは何をするところか」などのメッセージが流れる中、本校の生徒の様子が映像で流れました。

説明会の後半では、学力向上に向け新規に導入されるインターネットを活用し

た電子学習システム「eラーニング」を体験し、全体会の締めくくりは生徒会長の挨拶。「追分高校で自分は成長した」と、高校の先輩として熱く語りました。



追高＝一人ひとりが主役の学校

追分高校は、少人数だからこそ、強い絆で結ばれた仲間と出会い、誰もが主役になれる学校です。

追分高校の教職員は、生徒一人ひとりをかけがえのない存在として認め、3年間かけて、自律した18歳に育て上げます。

追高＝一人ひとりを伸ばせる学校

皆様のご意見をお寄せください。

北海道追分高等学校では、学生たちの日々の活動や学校の取り組みなどをまとめた「追高エピソード」を不定期に発行しています。

これまで、安平町の皆さんに追分高等学校についてより多くのことを知っていただくため、生涯学習だより「さらに」で学校行事や学生の活動などについて紹介してきましたが、今回から広報あびらに掲載させていただくこととなりました。ぜひ、ご一読ください。

追分高校のサポーター

今回は追分高校にかかってきた1本の電話の内容を紹介します。

6月20日（金）放課後、職員室の電話が鳴りました。追高の近所の方からの電話でした。

「もしもし、教頭先生いらっしゃいますか。生徒さんのことでお話したいことがあるんです。」初老のご婦人の声でした。

『昨日の朝、家の前で花壇の草むしりをしていたところ、人の気配がして顔を上げると「こんにちは」って挨拶されたんです。少しお話しする中で、追分高校に登校途中の生徒さんだと分かったんです。その自然な笑顔や話ぶりから『優しい気持ちのある子だな。家庭と学校がうまくいっているんだな』と感じました。何より、見ず知らずの子に挨拶されて、大変いい思いをさせていただきました。だから電話したんですよ。』

最近の追分高校の生徒さんは変わってきましたね。先生方のご指導がいいんだと思います。以前は花壇を踏まれたり、傘で花を散らされたり、全体を見ると「ちょっとどうかしら？」っていう時期もありました。でもね、個々の生徒さんを見ると皆さん一生懸命な姿でしたよ。

学校教育だけが生徒の姿を作るものではありません。家庭環境や家庭の教育力の方が主だと私は思っています。ここ2年あたりから、追分高校は変わってきました。良くなりましたね。

どういことがあっても、これからの生徒さん達です。全ては経験だと思います。今後も地域の学校として応援させて下さいね。」と…。

一言の挨拶が相手の心を動かしたのだと思います。その一言は日々の積み重ねの結果です。先生方や保護者の見ていないところでの行動こそが、教育の成果なのではないでしょうか。

地域の方が追分高校の支えとなっていることを知らせてくれた電話でした。ありがとうございました。